

科目名 Course Name	ボランティア概論 Introduction to Voluntary Action				ナンバリング No.	A2-004	
年次	1年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	松崎 勇人						
連絡方法	C-Learning で対応。または、本館2階研究室、火曜を除く昼休みや空き時間						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2、DP4						
授業の概要と到達目標	<p>ボランティア活動の大切さを知り、より良い社会を作るために何ができるか考えて、自らボランティア実践できる様な態度を育成し、ボランティア活動に関する基本的知識を理解させる。</p> <p>①ボランティアとボランティア活動の意味を他者に説明することができるようにする。 ②ボランティア活動の機能による分類の利点を他者に説明することができるようにする。 ③特定非営利活動促進法の要点を他者に説明することができるようにする。 ④ボランティア・コーディネーターの定義と役割を他者に説明することができるようにする。 ⑤地域福祉に関わる課題の解決案を考えることができるようにする。</p>						
授業の方法	講義形式で行うと共に、あるテーマについてのディスカッションを行い、自ら考え説明できるようにする。課題の解決案をプレゼンテーションさせる。						
学習成果	L01						
	L02	ボランティア活動の意味を認識して実践できる。 NPO法人を作るための手がかりを得ることができる。					
	L03	地域福祉に関わる課題の解決案を作ることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	課題は講義中に返却する。						
教科書/参考図書	なし。自作プリント等を配布する。						
履修上の留意点やルール等	極力休まないこと。ノートをとること。積極的に討論に参加すること。私語はしないこと。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。		20		
レポート/作品	地域福祉に関する課題の解決案の提出。評価基準は別途説明。			40	
発表					
小テスト					
試験	到達目標に示した内容に関する基本的事項を説明できるかどうかをペーパーテストにより尋ねる。手書きのノートの持ち込みを許可する。評価基準の詳細は講義中に説明する。中心的意味が説明できれば加点する。		40		
その他					
合 計			60	40	

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス
	事前・事後学習	今後のやるべきことの全体を整理する。
2	授業内容	ボランティアの理念
	事前・事後学習	要点を整理する。
3	授業内容	ボランティアの今日的意味
	事前・事後学習	要点を整理する。
4	授業内容	ボランティア活動の分類
	事前・事後学習	要点を整理する。
5	授業内容	ボランティア活動の現状
	事前・事後学習	要点を整理する。
6	授業内容	NGO と NPO 1、 概念整理 世界の NGO
	事前・事後学習	要点を整理する。
7	授業内容	NGO と NPO 2、 日本の NGO、 NPO。 レポート課題の提示 (40 点)
	事前・事後学習	要点を整理する。
8	授業内容	NPO 法 1 目的
	事前・事後学習	要点を整理する。
9	授業内容	NPO 法 2 活動 レポート課題の途中経過報告
	事前・事後学習	要点を整理する。
10 12/7	授業内容	NPO 法 3 法令
	事前・事後学習	要点を整理する。
11	授業内容	ボランティア・コーディネーターとボランティア・アドバイザー レポート課題の途中経過報告
	事前・事後学習	要点を整理する。
12	授業内容	ボランティア活動の動機
	事前・事後学習	要点を整理する。
13	授業内容	企業のフィランソロフィー (慈善事業) レポート課題の途中経過報告
	事前・事後学習	要点を整理する。
14	授業内容	ボランティア学習の楽しさ、これからの福祉社会とボランティア
	事前・事後学習	要点を整理する。
15	授業内容	テスト (40 点) は 16 回目に実施、レポート課題の提出締め切り。現代的テーマで最後に補う。
	事前・事後学習	テストへ向けて総復習する。